

世界の大手製薬企業・研究機関、顧みられない熱帯病治療薬開発促進を目的とした、
知的財産・ノウハウを世界所有権機関（WIPO）に提供

熱帯病研究を加速する、新しい官民パートナーシップ
「WIPO リサーチコンソーシアム」を立ち上げ

ジュネーブ、2011年10月26日ー世界知的所有権機関(WIPO)と BIO Ventures for Global Health (BVGH)は、このたび、世界の大手研究開発型製薬企業との新しいコラボレーションによるコンソーシアムである WIPO Re:Search (以下、WIPO リサーチコンソーシアム) を発足しました。WIPO リサーチコンソーシアムは、顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Diseases: NTD) および結核、マラリアの治療薬・ワクチン・診断薬の研究開発を目的とした貴重な知的財産および研究開発ノウハウを、世界各国の官民機関とグローバルヘルス研究者との間で共有する共同事業です。

本コンソーシアムには、WIPO、BVGH のほか、アルナイラム製薬、アストラゼネカ、エーザイ、グラクソスミスクライン、MSD¹、ノバルティス、ファイザー、サノフィ、米国立衛生研究所 (NIH)、カリフォルニア工科大学、Center for World Health & Medicine、Drugs for Neglected Disease *initiative*、オズワルド・クルーズ財団、マサチューセッツ工科大学、Medicines for Malaria Venture、PATH、South African Medical Research Council、スイス熱帯病公衆衛生研究所、カリフォルニア大学バークレー校、University of Dundee (英国) が加盟し、連携していきます。

WIPO 事務局長フランシス・ガリ氏は、「WIPO リサーチコンソーシアムは、知的財産を社会的利益のために有効活用することを目的として、多様なステークホルダー同士が連携する革新的な事例となります。本コンソーシアムに加盟している製薬企業や研究機関は、所有している知的財産を NTD、マラリア、結核を対象とした研究開発活動のためにロイヤルティー・フリーで提供します。こうした取り組みにより、これらの疾患の治療薬・ワクチン・診断薬の研究開発が加速されることと確信しています」と述べています。

世界保健機関 (WHO) の推定では、今日顧みられない熱帯病により世界の約 10 億の人々が健康を害しているとされています。世界保健機関 (WHO) は WIPO に対し、公衆衛生上の課題や研究の優先順位について専門的な側面からのアドバイスを提供します。

WIPO リサーチコンソーシアムは、NTD、結核、マラリアの研究開発に利用できる知的財産、情報およびリソースを公開データベースとして提供することにより、これらの疾患に関する研究開発を行う機関にパートナーシップの機会を提供します。

¹ MSD は米国ニュージャージー州ホワイトハウス・ステーションに本部を置く Merck & Co., Inc.の商標名です

WIPO リサーチコンソーシアムへの加盟については、利用者、提供者、支援者のどの立場であっても、本コンソーシアムの基本指針を理解、支持するすべての企業・団体に対し開かれています。この基本指針は、本コンソーシアムを通してライセンス供与される知的所有権が、すべての NTD に対する研究開発、および後発開発途上国における NTD 治療薬の販売において、ロイヤルティ・フリーで提供されることを保証するものです。

アストラゼネカ・最高経営責任者（CEO）であり、国際製薬団体連合会会長のデビッド・ブレナン氏は、「イノベーションを創出する製薬産業は、アンメット・メディカル・ニーズ充足において重要な役割を担っており、我々が所有する知的財産へのアクセスを可能にすることにより、顧みられない疾患に対する新しい治療薬の研究開発促進に貢献していきます。WIPO リサーチコンソーシアムは、世界の健康レベル向上に良い影響を与える可能性を秘めており、当社も本コンソーシアムに利用可能な全ての特許を提供し、NTD 治療薬の研究開発推進を支援していきます」と述べています。

WIPO リサーチコンソーシアムのデータベースには、化合物や関連データ、化合物ライブラリのスクリーニング結果や医薬品開発ノウハウなど、当該疾患に関する幅広い情報が集約されています。また、本コンソーシアムでは、NTD の研究者が製薬企業の科学者と直接協働する機会を提供し、研究開発を促進します。本コンソーシアムの推進にあたり、現在加盟している製薬企業等からの貢献が今後より一層拡大されるとともに、新規企業・団体の加盟も期待されています。

米国・NIH 所長のフランシス・S・コリンズ氏は、「NIH は公衆衛生の改善に貢献する診断薬・治療薬・医療機器の研究開発を目的として、当研究所が保有する特許を民間セクターに供与します。我々は、こうした特許や生物由来物質が、NTD などの疾患により世界で最も負担を強いられている人々のため一日でも早い製品開発に役立つことを願っています。WIPO リサーチコンソーシアムはそのための支援を提供します」と述べています。

WIPO リサーチコンソーシアムには、WIPO、BVGH、NIH および 8 つの大手製薬企業に加え世界各国の著名な研究機関が提供者、利用者、支援者として加盟しています（別紙参照）。また、BVGH が運営する WIPO リサーチ・パートナーシップ・ハブでは、加盟製薬企業とコンソーシアム利用者との関係づくりを支援する活動を行います。

BVGH の最高執行責任者(COO)である Don Joseph 氏は、「WIPO リサーチコンソーシアム・ハブの運営事務局として、アンメット・メディカル・ニーズの極めて高い NTD の研究促進に向け、世界の研究者の方々に新しい機会を提供していきます。提供者の方々が NTD 研究に利用できる情報を検証し、提供していただくことで、これまでの研究開発投資を資源の貧しい国々の人々に貢献する製品創出に生かすことが可能になります」と述べています。

WIPO について

世界知的所有権機関(WIPO)は、国連の専門機関であり、公共の利益を守る一方、創造に対して報い、イノベーションを促進し、経済の発展に貢献するバランスの取れた利用しやすい国際的な IP 制度の発展に取り組んでいます。現在、184 の国と地域が加盟しており、加盟国間の協力および他の国際機関との連携を通して、世界中で IP の保護を推進しています。

WIPO は、主に、「IP に関わる国際法漸進的発達」「開発途上国を対象とした IP の有効活用に向けた研修プログラムの実施」「民間企業を対象とした複数国における特許取得および IP に関する裁判外紛争処理に関するサービスの提供」の 3 つの活動に取り組んでいます。

BIO Ventures for Global Health

BIO Ventures for Global Health(BVGH)は、開発途上国におけるアンメット・メディカル・ニーズを充足する、バイオ産業発の新薬・ワクチン・診断薬の開発を加速させることで、人々の生命を救うことをミッションとする非営利団体です。当機関は、バイオテクノロジーおよびグローバルヘルスの交差点で取り組み、グローバルヘルス・コミュニティの目標と企業の実務的なニーズの間の共通点を見いだすことに注力しています。

2004 年の設立以来、BVGH は、グローバルヘルス事業のリーダーとして様々な取り組みを進めてきました。現在、“Pool for Open Innovation against Neglected Tropical Diseases”という事業を運営管理しており、NTD 治療薬の研究を目的とした知的財産の共有に関して、提供機関および利用機関の両方の視点から豊富な経験を有しています。BVGH の詳細については、www.bvgh.org をご覧ください。

<本件に関する問い合わせ先>

世界知的所有権機関 (WIPO)

Media Relations Section

+41-22-338-8161

Publicinf.mail@wipo.int

BIO Ventures for Global Health

Molly Polen

Director of Communications

+1-202-470-6232

+1-202-340-3593

mpolen@bvgh.org

<参考資料1>

顧みられない熱帯病について

世界保健機関（WHO）によると、顧みられない熱帯病（Neglected tropical diseases; NTD）により世界に27億人いるといわれている貧困層のうちの10億人を超える人々が健康を害していると推定されています。NTDは世界149の国と地域で蔓延しているとされており、このうち、100カ国・地域が、2種類以上のNTDの蔓延地域となっており、さらに30カ国・地域では6種類以上のNTDが蔓延しているとされています。NTDは貧困により蔓延していく一方、多くの国・地域で貧困の原因ともなっています。NTDでは、盲目や奇形などの身体症状が現れることがあり、経済活動や社会生活を送る上での障害となっています。重症化し、死に至る場合もあるため、結果として社会や医療に大きな負担となっています。

2010年、世界保健機関（WHO）は、NTDに積極的に取り組む戦略をスタートさせ、2020年までに一部のNTDの制圧を目標に掲げています。WIPOリサーチコンソーシアムはこうしたWHOの活動を支援するものです。

WIPOリサーチコンソーシアムについて

WIPOリサーチコンソーシアム（英文名：WIPO Re:Search）は、2011年10月に発足し、グローバルヘルス・コミュニティと知的財産および開発ノウハウを共有することにより、顧みられない熱帯病、結核、マラリアに対する新たな治療薬、ワクチン、診断薬の創出と開発を加速させることを使命としています。本コンソーシアムが取り組む疾患は、WHOのリストに基づく顧みられない熱帯病および結核、マラリアです。WHOのリストにはブルーリ潰瘍、シャーガス病（アメリカトリパノソーマ症）、神経囊虫症、デング・デング出血熱、メジナ虫症（糸状虫症）、エキノコックス症、風土性トレポネーマ症（フランベジア）、食品媒介性吸虫感染症（肝吸虫症、オピストルキス症、肝蛭症、肺吸虫症）、ヒトのアフリカトリパノソーマ症（アフリカ睡眠症）、リーシュマニア症、ハンセン病、リンパ系フィラリア症、マラリア、オンコセルカ症、狂犬病、住血吸虫症、土壌伝播蠕虫症、トラコーマ、結核、ポドコニコシス、ヘビ咬傷が記載されています。詳細は、WIPOリサーチのウェブサイト（www.wipoReSearch.org）をご覧ください。

また、非営利団体 BIO Ventures for Global Health が運営する WIPO リサーチ・パートナーシップ・ハブでは、コンソーシアムのデータベース利用を検討している研究機関および情報提供者あるいは支援者として加盟を検討している企業・団体の方々向けに、バーチャルプラットフォームを提供します。このプラットフォームでは、コンソーシアムの活動内容や研究開発パートナー企業・団体の情報、ネットワーキングの機会、資金調達オプションに関する情報提供を通じ、加盟製薬企業とデータベース利用者との関係づくりを支援します。

< 参考資料 2 >

提供者

アルナイラム製薬、アストラゼネカ、カリフォルニア工科大学、Center for World Health & Medicine、Drugs for Neglected Disease *initiative*、エーザイ、オズワルド・クルーズ財団、グラクソスミスクライン、マサチューセッツ工科大学、Medicines for Malaria Venture、MSD（MSD は米国ニュージャージー州ホワイトハウス・ステーションに本部を置く Merck & Co., Inc.の商標名です）、ノバルティス、PATH、ファイザー、サノフィ、South African Medical Research Council、スイス熱帯病公衆衛生研究所、カリフォルニア大学バークレー校、University of Dundee、米国立衛生研究所（NIH）

利用予定者

Center for World Health & Medicine、Drugs for Neglected Disease *initiative*、Emory University、オズワルド・クルーズ財団、iThemba Pharmaceuticals、Medicines for Malaria Venture、Sabin Vaccine Institute、South African Medical Research Council、カリフォルニア大学バークレー校、カリフォルニア大学サンフランシスコ校、University of Dundee

支援者

Association of University Technology Managers、Indian Council for Medical Research、国際製薬団体連合会（IFPMA）、Kenya Medical Research Institute、Licensing Executive Society International、Mahidol University、South African Medical Research Council、米国特許商標局